

天保堰 マップ



1 黒川能の里 王祇会館



重要無形民俗文化財「黒川能」を紹介する展示をしている。観賞時間 9:00~16:30
問合せ0235-57-5310

2 ふるさとむら宝谷



土日のみ宝谷そばが食べられる。予約をすれば宿泊や農業体験ができる。
問合せ0235-57-4415

③ 煙見の滝



天保堰から田沢川へ注ぐ終端部

15mの落差があり、その水しぶきが上がる姿は、煙のように見えることから「煙見の滝」と呼ばれる。

② 明治堰



鶴岡市旧榊引町たらのき代へ流れる水路。昔から水不足のため天保堰からの分水を願っていたが、多くの難関と反対があった。歳月をかけて、横倉沢の開削を行い水源を手にした。

① 天保堰頭首工



朝日地域を流れる金剛山川から水を取り入れる。平成元年に改修し、スクリーン状の河床から直接天保堰に取り入れる仕組み。水は、トンネルと開水路を経て、榊引地域を潤す。

※ここで紹介した①~③の農業用施設は、一般の方々が見学することを想定していませんのでご注意ください。

天保堰に関する問合せ

庄内赤川土地改良区

TEL 0235-22-1173

てん ぼう ぜき
天保堰

水
 土
 里
ウオーク

豊富な水源を求めて

鶴岡市朝日地域に、約百八十年前に造られた「天保堰（てんぼうぜき）」という水路がある。この天保堰は、大館藤兵衛元貞（おおだてとうべえもとさわ）によって整備され、現在も鶴岡市榊引地域の田を潤している。

榊引地域は近くを流れる田沢川の水が少ないため、元貞公は新しい水源を求めて、月山の山中を探しまわった。苦難の末に金剛沢川から水を取り入れる場所を見つけ、天保8年6月から工事を行った。険しい山の中で、毎日千人に及ぶ人々を動員しての難工事となったが、2ヶ月後の8月に完成した。これにより、榊引地域は水不足から解消され、多く田が潤い、新田も開発された。

農民が安心して農業ができるようにと思いを込めて作られた天保堰は、今も地域の人たちからあがめられ、現在では庄内赤川土地改良区が管理を行っている。



金剛山川からの昔の取入口



大館藤兵衛元貞の肖像